

一 次の(1)・(2)の文の―部の漢字の読みを、ひらがなでいいねいに書きましょう。

(1) ボールが転がる。

(1) がる

(2) 筆記用具をわすれないようにしよう。

(2)

二 次の(1)・(2)の文の―部のひらがなを、漢字でいいねいに書きましょう。

(1) 赤組がかつ。

(1)

つ

(2) 先生にそうだんする。

(2)

三 次の(1)・(2)の漢字の部首名を、の中の1から5までの中からそれぞれ一つずつえらび、()の中に、その番号を書きましよう。

(1) 係 () (2) 顔 ()

1 おおがい

2 さんずい

3 きへん

4 ごんべん

5 にんべん

〈以上、平成30年度春徳島県学力ステップアップテストより作成〉

四 大西さんは、「昔の道具ひみつ調べ」で「せんたく板」について書いた下書きを、読み返して、書き直しました。どのようなことに気をつけて書き直したのでしょうか。あとの1から5までの中からあてはまるものを二つえらび、その番号に○をつけましよう。

【下書き】

○ せんたく板
せんたくをするときに使う道具で、長方形の木の板で、表面にぎざぎざのみぞがあります。水にぬらしたせんたく物を、みぞの上でこしごしこすって、よごれをおとします。せんたく物がたくさんあると、一つずつ手であらうので時間がかかりますし、冬だと水がつめたいから、たいへんな仕事だと思いました。

【書き直した文章】

○ せんたく板
せんたくをするときに使う道具です。長方形の木の板で、表面にぎざぎざのみぞがあります。水にぬらしたせんたく物を、みぞの上でこしごしこすって、よごれをおとします。せんたく物がたくさんあると、一つずつ手であらうので時間がかかります。それに、冬だと水がつめたくなります。たいへんな仕事だと思いました。

- 1 文のおしまいをよびかけるような表現にして書いた。
- 2 意味がよくわかるように、短い文に分けて書いた。
- 3 使い方がよくわかるように、番号を使って書いた。
- 4 内容のまとめりに、だんらしくに分けて書いた。
- 5 様子がよくわかるように、たとえを使って書いた。

